

調査・予測・評価の方法

環境影響評価を行う各項目の調査・予測・評価方法の概要は、以下に示すとおりです。

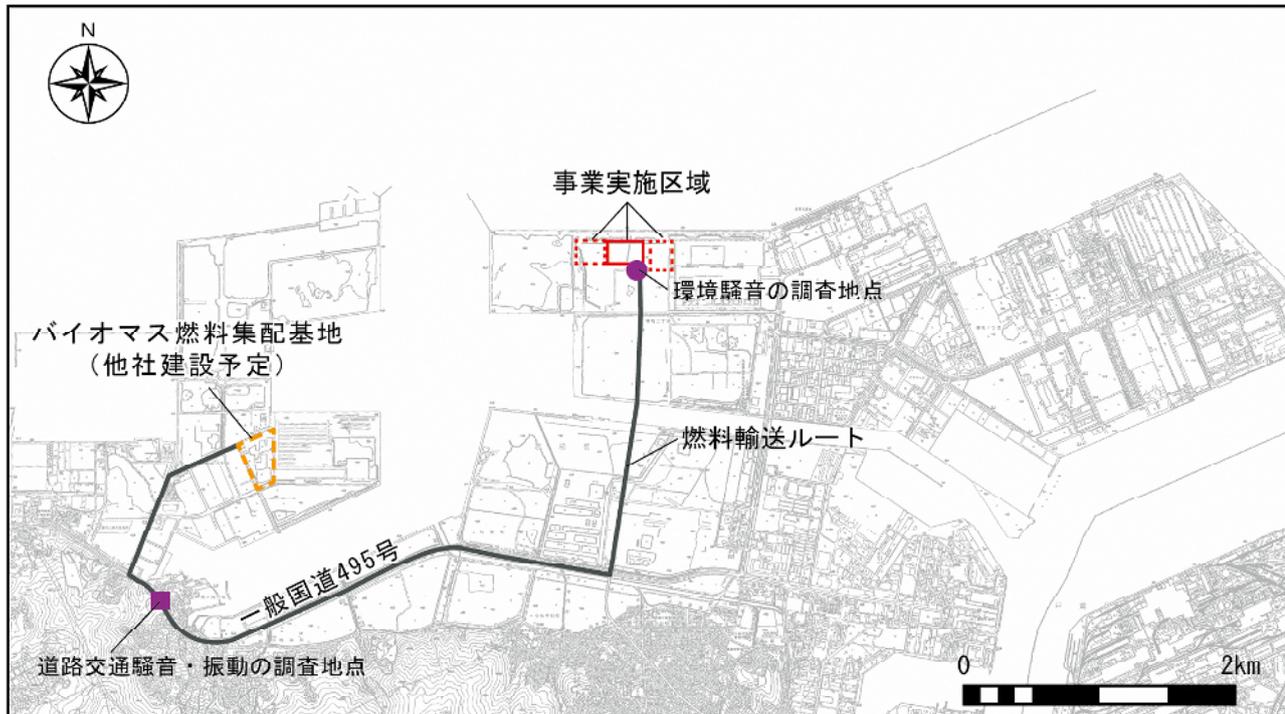
なお、近隣に建設される他社のバイオマス発電所との複合的な影響が大きいと想定される項目（大気質、水質、海生植物・動物）については、本事業影響に加えて他社事業との複合影響についても考慮して予測します。

▼調査・予測・評価の手法(大気環境)

環境影響評価の項目			調査、予測及び評価方法		
環境要素の区分		影響要因の区分			
大気環境	大気質	硫黄酸化物 窒素酸化物 浮遊粒子状物質	施設の稼働 (排ガス)	<調査方法>既設の大気測定局のデータ、既設の気象観測所のデータを収集、整理します。また、現地調査で資材等の搬出入車両の走行ルート上の交通量の測定を行います。	
		窒素酸化物	資材等の搬出入	<予測方法>施設の稼働時の排ガス中の大気汚染物質と資材等の搬出入車両の排ガス（窒素酸化物）の予測は、大気の拡散式に基づく数値計算を行います。 資材等の搬出入車両の走行時に発生する粉じん等の予測は、事業計画及び環境保全対策の実施計画を踏まえて定性的に予測します。	
		粉じん等	資材等の搬出入	<評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているか、また、環境基準との整合が図られているかを評価します。	
	騒音	騒音	建設機械の稼働	施設の稼働 (機械等の稼働)	<調査方法>現地調査で事業実施区域の敷地境界の騒音レベル、資材等の搬出入車両の走行ルート上の騒音レベル、交通量、道路の状況等を把握します。
			資材等の搬出入		<予測方法>音の伝搬理論式を基礎とした予測モデルを用いて計算します。
			資材等の搬出入		<評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているか、また、環境基準等との整合が図られているかを評価します。
	振動	振動	資材等の搬出入	<調査方法>現地調査で資材等の搬出入車両の走行ルート上の振動レベル、交通量、道路の状況等を把握します。 <予測方法>振動レベルの80%レンジの上端値を予測するための式を用いて計算します。 <評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているか、また、道路交通振動に係る要請限度との整合が図られているかを評価します。	

▼調査・予測・評価の手法(水環境、土壌)

環境影響評価の項目			調査、予測及び評価方法	
環境要素の区分		影響要因の区分		
水環境	水質	水の濁り	<調査方法>既存資料の収集・整理により海域の水質、流れの状況、海象、海底地形等を把握します。 <予測方法>造成時の水の濁りの予測は、施工計画及び濁水防止対策の実施計画を踏まえて定性的に予測します。施設稼働に伴う排水・温排水の予測は、密度流及び水面熱収支を考慮した二次元多層レベルモデルを用いて計算します。 <評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているか、また、環境基準等との整合が図られているかを評価します。	
		水の汚れ 富栄養化		造成等の施工による一時的な影響
		水温		施設の稼働(排水)
土壌	土壌汚染	造成等の施工による一時的な影響	<調査方法>既存資料をもとに土壌汚染対策法における指定状況を調査します。 <予測方法>施工計画及び土壌に関する環境保全対策の実施計画を踏まえて定性的に予測します。 <評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているかを評価します。	



備考) 事業実施区域の破線範囲は、工事中の資材等の仮置き場です。

▲騒音・振動の現地調査地点